

少人数学級のよさを生かした算数指導のあり方

1. 主題設定の理由

近年の日本では少子化が大きな問題として取り上げられている。文部科学省の学校基本調査によると、全国における1学級当たりの児童数は、25.2人（平成22年度）、24.9人（平成23年度）と昭和56年から減少の一途をたどっている。国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計からも、今後の児童数の増加は見込めない。

そのような現状の中で、少人数学級のよさを生かして自分の考えをもたせ、学習への定着を図るには、どのような算数指導が有効かを探るため、本主題を設定した。

2. 研究仮説

レディネスチェックによって実態を把握し、指導計画・支援計画を工夫して指導すれば、全員が自分の考えをもち、学習への定着率を上げることができるであろう。

《指導計画・支援計画作成の流れ》

- ①レディネスチェック
- ②つまずきの分析
- ③指導方法・具体的支援の検討
- ④指導計画立案
- ⑤子どもの実態に合わせて、個々に支援計画を立てる。

（学習を進めていく中で子どもの実態に変化があれば、その都度修正）

3. 研究内容

- レディネスチェックを用いた子どもの実態把握と、それにともなった指導計画の作成と指導
- 授業研究を通しての分析と考察

4. 結 論

レディネスチェックによる実態調査に基づき、子ども個々の課題に合わせた全体指導計画・支援計画を立てたことで、問題解決に必要な知識・技能が定着した。また、自力解決場面においては、解法の見通しをもつことができ、全員が自分の考えをもって学習にとりくみ、学習内容の定着率が高まった。